

茨城県土浦市

六十原 A 遺跡

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1996

土 浦 市 教 育 委 員 会
土 浦 市 遺 跡 調 査 会

茨城県土浦市

六十原 A 遺跡

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1996

土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

序

土浦市は霞ヶ浦や桜川の水に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところがありました。その為、市内には貝塚、古墳、集落跡等数多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は当時の様子を知る手がかりとなる事はもちろんの事、現代の私たちが豊かに生活する事のできる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を保護し、後世に伝える事は私たちの大切な任務であり、郷土の発展の為にも重要な事と思われます。

この度の調査は、株式会社カスミ住宅サービスの宅地造成工事に伴い、周知の遺跡である六十原 A 遺跡発掘調査による記録保存を目的として行われたものであります。

遺跡内からは、市内でも有数の縄文時代の土坑群が確認され、おびただしい数の縄文土器などが発見されております。

この調査によって、桜ヶ丘地区の古代文化の究明にいささかなりとも役立てていただければ幸甚であります。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、株式会社カスミ住宅サービスをはじめ、関係者の皆様方の御協力と御支援に対し、心から厚く御礼申し上げます。

平成 8 年 6 月

土浦市教育委員会

教育長 青木 利次

例　　言

1. 本書は茨城県土浦市桜ヶ丘町2286-5番地に所在する六十原A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は宅地造成工事に伴う事前調査として実施した。
3. 調査は土浦市教育委員会の指導のもと土浦市遺跡調査会を組織し、山武考古学研究所の協力を得て実施した。
4. 遺跡の面積及び調査期間・調査担当者は下記の通りである。
調査面積 1,055m²　調査期間 平成7年7月3日～同年9月19日　調査担当者 肥田順一
5. 本書の執筆及び編集は山武考古学研究所において肥田が担当した。
6. 調査に際しては下記の諸機関に御協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。
(株)カスミ住宅サービス　大野測量事務所　(有)新成田総合社
7. 調査組織は以下の通りである。

会　長	須田直之	土浦市文化財保護審議会会長
副会長	青木利次	土浦市教育委員会教育長
理　事	大塚博	土浦市文化財保護審議会委員
タ	廣田宣治	土浦市参事兼企画課長
タ	内海崎保生	土浦市土地地区画整理課長
タ	雨貝宏	土浦市都市計画課参事兼建設指導課長
タ	野口幹雄	土浦市都市計画課長
タ	金塚文雄	土浦市耕地課長
タ	大塚重治	土浦市土木課長
タ	半岡和夫	山武考古学研究所所長
監　事	矢口寛	土浦市教育委員会次長
タ	飯田章二	土浦市監査事務局長
幹　事　長	宮本昭	土浦市教育委員会文化課長
幹　事	矢口俊則	土浦市教育委員会文化課長補佐
タ	小貫俊男	土浦市教育委員会文化課主査兼文化財係長
タ	塙谷修	土浦市教育委員会主幹
タ	石川功	土浦市教育委員会主幹
タ	黒澤春彦	土浦市教育委員会主事
タ	中澤達也	土浦市教育委員会主事
タ	間口満	土浦市教育委員会主事
タ	橋場君男	土浦市教育委員会主幹補
タ	宮本礼子	土浦市教育委員会主幹補
調　査　員	本橋弘美	土浦市教育委員会文化課臨時職員
主任調査員	肥田順一	山武考古学研究所調査員

凡　　例

- 第1図は国土地理院発行5万分の1『土浦』を、第2図は土浦市役所発行2千5百分の1『土浦都市計画図56』を使用した。また、第8図は同図を拡大して使用した。
- 本書の構成の挿図の縮尺は、標準堆積—1/20、全測図—1/300、住居跡・土坑—1/80とし、遺物の挿図・写真の縮尺は、1/5・2/5とした。
- 挿図中に使用した記号・スクリーントーンの主旨は挿図中に掲載した。
- 出土遺物の注記は（桜ヶ丘町）六十原A遺跡—SRA、住居跡—SI、土坑—SKとした。

目　　次

本文目次

序・例言・凡例	第6章 検出された遺構と遺物	5
第1章 調査に至る経緯	第1節 概要	5
第2章 遺跡の位置と環境	第2節 住居跡	7
第3章 調査の方法	第3節 土坑	9
第4章 調査の経過	第7章 まとめ	15
第5章 標準土層		
		3

挿図目次

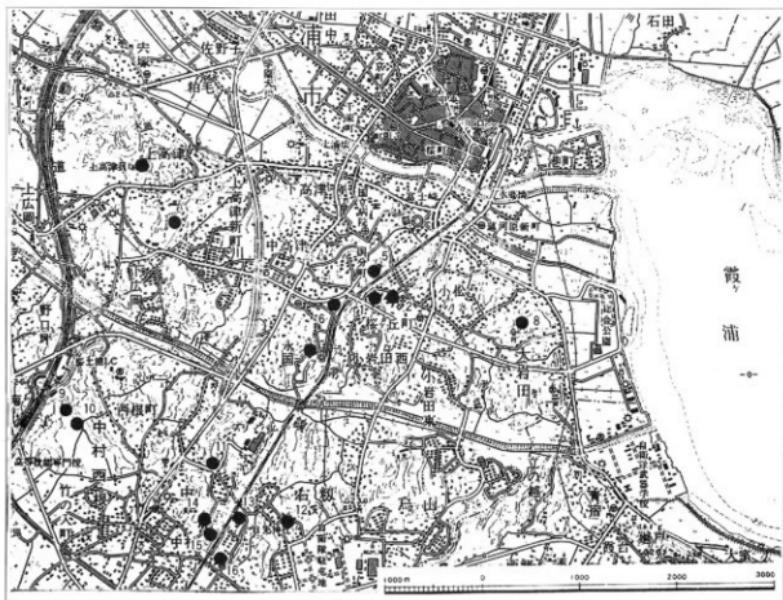
第1図 縄文時代中期の 主な遺跡	序	第7図 18・19・21・42・55・57・71 ・99・109号土坑	10	第12図 53～56号土坑 出土遺物	23
第2図 調査区と周辺の 地形	序	第8図 六十原A・ 六十原遺跡位置図	14	第13図 56・60・71・74号 土坑出土遺物	24
第3図 標準堆積土層と 30号土坑断面図	3	第9図 住居跡出土遺物	20	第14図 74～77・79・81・86・90・ 91号土坑出土遺物	25
第4図 全測図	4	第10図 5・7・8・11・14・18 19号土坑出土遺物	21	第15図 99・104・109号土坑、 表採出土遺物	26
第5図 遺構別分布図	6	第11図 20・22・23・27・44・46 52号土坑出土遺物	22	第16図 土坑出土遺物（石器）	27
第6図 4・6号住居跡	8				

表 目 次

表1 住居跡一覧表	7	表2 土坑一覧表（1）	12	表3 土坑一覧表（2）	13
-----------	---	-------------	----	-------------	----

写真目次

調査風景	2・3	住居跡・土坑	17	土器片錐	27
遺跡全景	5	土坑（1）	18	住居跡・土坑出土遺物	28
55号土坑出土の貝類	9	土坑（2）	19	土坑出土遺物	29



第1図 縄文時代中期の主な遺跡 (国土地理院発行 1/50,000 に加筆)

1. 六十原A遺跡
2. 六十原遺跡
3. 上高津貝塚
4. 宮脇B遺跡
5. 国分遺跡
6. ピヤ首遺跡
7. 水国遺跡
8. 内根B遺跡
9. 笹崎遺跡
10. 石橋台遺跡
11. 谷原門遺跡
12. 宮前遺跡
13. 峰崎遺跡A地点
14. 木の宮北遺跡
15. 峰崎遺跡C地点
16. 峰崎遺跡B東地点



第2図 調査区と周辺の地形

第1章 調査に至る経緯

平成7年3月7日に株式会社カスミ住宅サービスより、土浦市開発行為指導要綱に基づく事前協議申請書が提出された。その内容は約2,396m²の土地において、宅地造成工事を行うという主旨のものであった。このことを受け土浦市教育委員会では、遺跡台帳との照合及び現地踏査を実施した。この結果、事前協議申請地は「周知の遺跡」に該当していなかったが、現地地表面に土器片などの散布が見られたため、事業主及び地主の協力を得て埋蔵文化財確認調査を実施するはこびとなった。

確認調査は平成7年4月20日に実施され、申請地の約8%について重機を使用してトレンチ調査を実施した。この結果、申請地の中央部分から西方により土坑18基や住居跡2軒が確認され、縄文土器などの遺物が出土した。この新規発見の埋蔵文化財については、六十原A遺跡として、茨城県教育委員会及び文化庁宛に遺物発見の通知を提出し、遺跡台帳に登録した。

土浦市教育委員会では平成7年4月24日付けで、確認調査の状況をまとめ事業主宛に「申請地で現状変更を行う場合は、埋蔵文化財の発掘調査が必要となる」旨を報告した。

この後、事業主と土浦市教育委員会の間で、埋蔵文化財の取扱いについて協議を重ねた。その結果、申請地の工事計画では造成事業が予定され、現状保存が困難であることから、発掘調査により埋蔵文化財の記録保存を行うことで合意した。発掘調査にあたって、申請地内東側の確認調査において、遺構・遺物などが確認されなかかった部分は本調査の対象から外した。

発掘調査にあたっては土浦市教育委員会が土浦市遺跡調査会に依頼し、緊急な開発事業のため、山武考古学研究所の協力のもとに実施するはこびとなった。(土浦市教育委員会 関口 満)

第2章 遺跡の位置と環境

六十原A遺跡は、常磐線土浦駅の南西約1kmの土浦市桜ヶ丘町2286-5番地他に所在する。遺跡が所在する土浦市は、茨城県の南部に位置し、東京近郊のベッドタウンとして、また大企業等による工場進出によって開発が進んでいる。市街地は桜川が霞ヶ浦（土浦入り）に注ぐ河口付近に沿っており、土浦駅付近を中心へ広がっている。

土浦市周辺の地形は、西茨城郡岩瀬町の鏡池に源を発する桜川の沖積低地を境に、北部の台地が新治台地、南部が筑波稲敷台地と呼ばれている。新治台地は標高25~27m、筑波稲敷台地はやや低く24m前後の洪積台地である。

六十原A遺跡は、筑波台地の東端付近に位置し、南北それぞれ約1kmのところを花窓川と桜川が流れ、東側の霞ヶ浦に注いでいる。遺跡の現況は荒廃地であったが、周辺には住宅が建ち並び、西隣りを常磐線が通っている。調査区は北東から南西に緩やかに傾斜しているがほぼ平坦で、標高は約27mである。

六十原A遺跡周辺の縄文時代中期の主な遺跡を第1図に掲げた。東側に接する六十原遺跡（2）では、平成5年に発掘調査が実施され、阿玉台・加曾利E I式期の竪穴住居跡や土坑が検出されている。また、当遺跡と道路を挟んだ西側で確認調査が行われ、遺構が確認されている。その他、阿玉台・中峠・加曾利E I式期の遺構が検出された遺跡は、神立遺跡、蟹久保遺跡、東台遺跡、御茅遺跡、神明遺跡、永国遺跡（7）、笛崎遺跡（9）、石橋台遺跡（10）、宮前遺跡（12）、峰崎遺跡A地点（13）等である。

第3章 調査の方法

対象面積2,396m²の確認調査の結果に基づき、1,055m²の本調査を実施した。

表土除去は、伐採・草刈りの後、重機を使用して慎重に行った。また、大木の抜根は遺構を傷つける恐れがあるため現状のまま残した。

遺構確認は、調査区北西側から着手し、根の残っている部分に遺構がある場合は人力で根を切断して除去した。遺構確認終了後、確認状況の写真撮影、平面図(1/200)を作成した。

遺構の掘り下げは、調査区北西側より着手した。住居跡の掘り下げは基本的に土層観察用のベルトを十字に設定し、土坑は半裁し、堆積土の記録に努めた。また、三角フラスコ型の土坑の堆積土の観察と形態を把握するために、30号土坑の断ち割りを行った。

遺構の測量は、公共座標を基準に9本の杭を打ち、4m×4mのグリッドを設定した。グリッド名は北西隅を基点とし、北から南にA・B・C……Nと大文字アルファベットを、西から東に1・2・3……12とアラビア数字を付した。また、B5・G5・L5はそれぞれ公共座標のX=6979.680・6959.680・6939.680、Y=32670.921である。表採の遺物はこのグリッドの名称に従い取り上げた。実測図は遺跡全体測量図を1/200で、各遺構は1/20を基本とし、必要に応じて1/10で作図した。

堆積土の色調は、『新版標準土色帳』(農林水産省農林水産技術会議事務局刊 財團法人日本色彩研究所色票監修)によった。

写真撮影は、白黒35mm、カラースライド35mm、6×7判を使用し、各調査段階を記録した。

第4章 調査の経過

6月

下旬 伐採・草刈りを行い、表土除去を開始する。表土除去終了。



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景

7月

上旬 造構確認を開始する。住居跡、土坑を確認する。

中旬 造構確認を終了し、調査区北西部から造構掘り下げを開始する。上・中旬とも雨天の日が多い。

下旬 梅雨明け。造構掘り下げを継続する。

8月

上旬 造構掘り下げを継続する。記録的な猛暑で気温30度をこす日が続く。

中旬 夏期休暇。調査の主体が調査区北西部から中央付近に移る。

9月

上旬 調査区南東部を主体に造構掘り下げを継続する。補助員を増員する。

中旬 現地説明会を開催する。調査終了。器材搬出、プレハブの撤去。



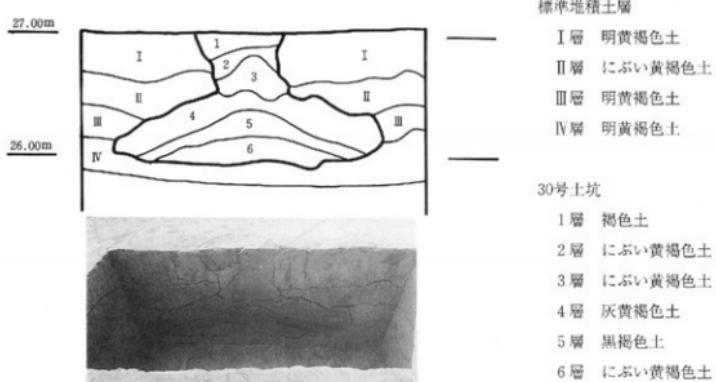
調査風景



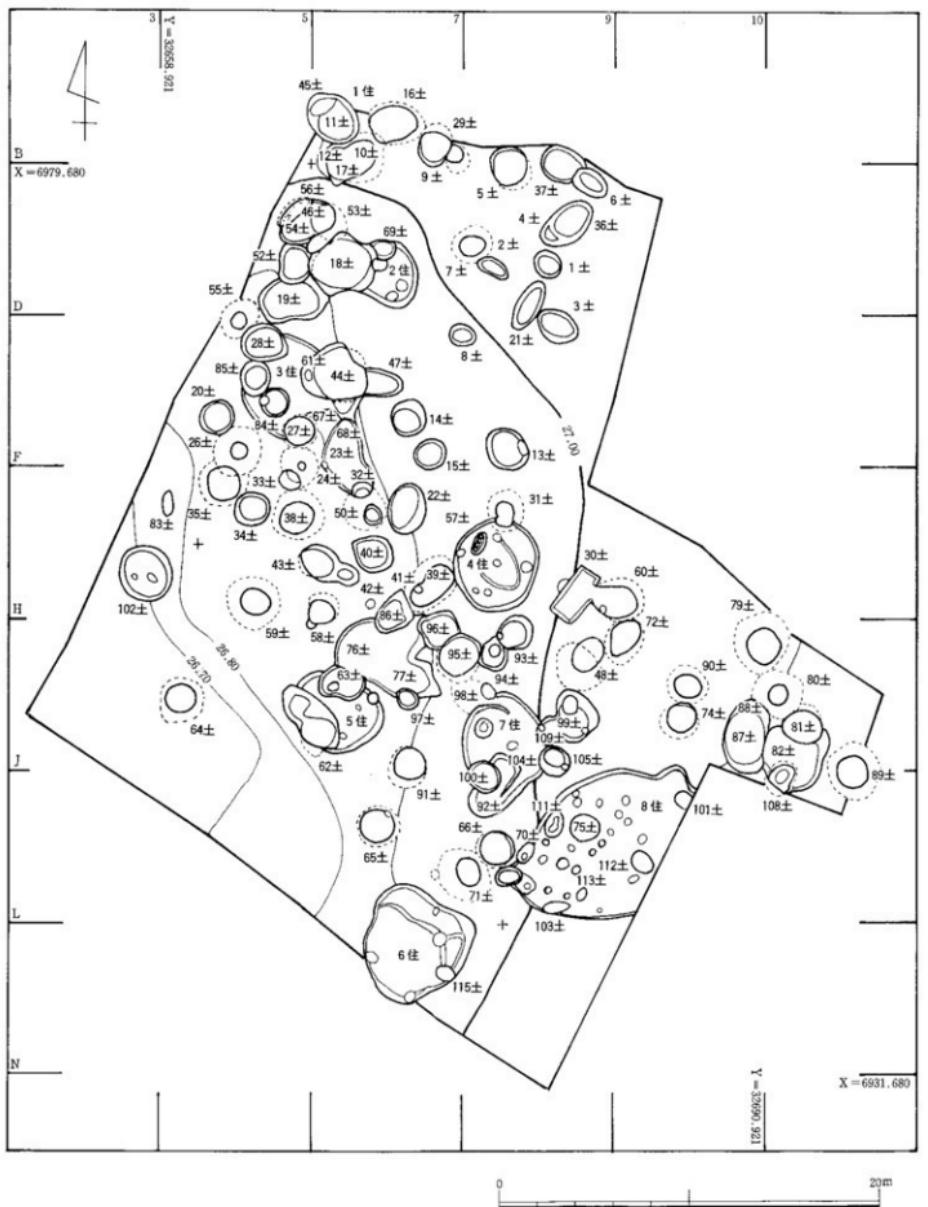
調査風景

第5章 標準土層

第3図は30号土坑の断ち割りの際に標準土層を記録した図面である。I層の上には厚さ50cm前後の表土層が存在する。I層は明黄褐色のソフトロームで造構確認面である。II層は粘性・縮まりとともにI層より強くなり、色調はI層より暗くなる。III層はハードロームの漸移層で縮まりが増し、IV層の明黄褐色土はハードローム層である。



第3図 標準堆積土層と30号土坑断面図



第4図 全測図

第6章 検出された遺構と遺物

第1節 概 要

遺構は調査区北東付近と南西付近が少なく、中央付近に弧を描く帯状に分布している。また、調査区外に延びている遺構も多く、北側に接する部分の確認調査で遺構が確認され、更に東側約300mに近接する六十原遺跡でも当遺跡と同様の遺構が多数検出されていることから、遺跡が広範囲に及ぶことが予想される。検出された遺構の総数は住居跡8軒、土坑115基（内6基欠番）である。

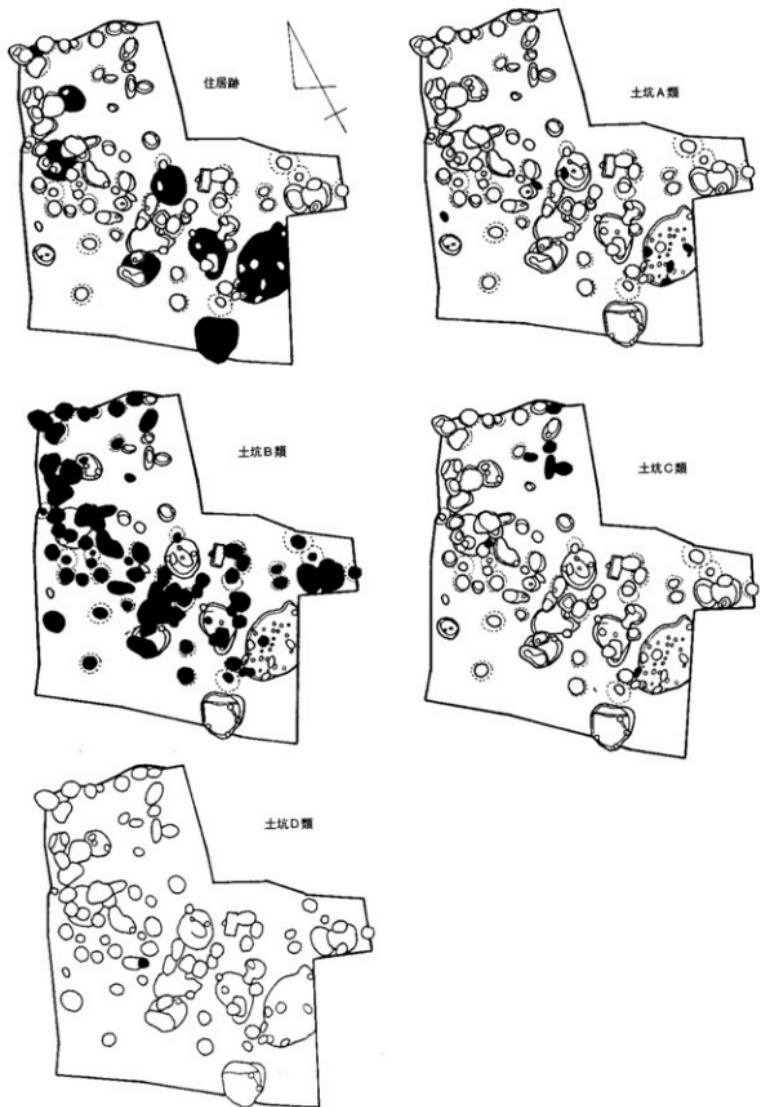
遺物は大形の整理箱40箱、段ボール箱3箱が出土している。その大半が縄文時代中期の遺物である。

土器の器種では深鉢・浅鉢・ミニチュア土器がある。その他土製品としては夥しい量の土器片錠が出土している。石器は少量で石錐・打製石斧・磨製石斧・凹石・多孔石等が出土している。その他では土坑中に投棄された地点貝塚で貝・魚骨、土坑の覆土中から炭化したクルミ等の堅果類も出土している。

44号土坑からは旧石器時代末期の尖頭器が1点出土しているが、混入遺物と考えられる。



遺跡全景



第5図 遺構別分布図

第2節 住居跡

縄文時代中期の住居跡が8軒検出されている。全ての住居跡が土坑と重複し、掘り込みが浅く遺存状態は悪い。状況の良好な2軒について図示した。共に中央部分が1段低くなる有段の住居跡で、特徴的である。遺物の出土量はいずれも少ない。

その他の住居跡は表1 住居跡一覧表にまとめた。

4号住居跡(第6図)は調査区のはば中央に位置し、31・57号土坑と重複する。平面は円形を呈し、規模は径が約5m、確認面下の深さは約0.2mと浅い。床面はほぼ平坦であるが、中央付近に緩い段を有する。かは埋甕が1基と2か所に地床炉がある。ピットは6本検出された。

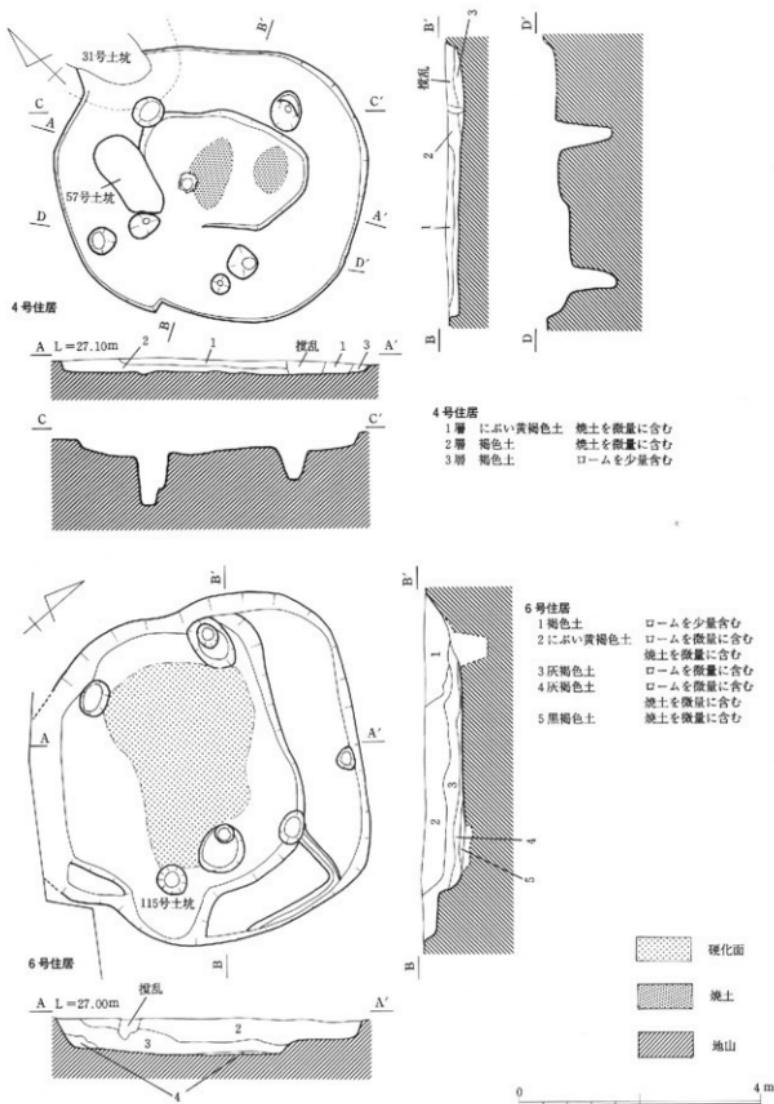
出土遺物は少量で、深鉢型土器胴部破片、ミニチュア土器の各1点について掲載した。

6号住居跡(第6図)は調査区の南端に位置し、115号土坑と重複する。平面は不整形で、南端は調査区外となるが、規模は東西約5.5mである。北・東側にテラス状の段を有し、上段までの深さは約0.3m、下段までは約0.6mである。上・下段とも床面はほぼ平坦で、下段の中央付近に硬化面が認められた。また、上段には間仕切りと思われる浅い溝がある。ピットは6本、炉は検出されなかった。

出土遺物は微量で、深鉢型土器片5点、土器片錠3点について掲載した。

表1 住居跡一覧表

遺構名	平面形態	規模(m)		主な出土遺物	備考
		長軸	短軸		
1号住居跡	---	--×--	0.2	深鉢・浅鉢・ミニチュア・磨石	10~12・16~17号土坑と重複。極一部しか遺存していないため形態・規模不明。住居跡と思われる。阿玉台Ⅳ式・加曾利E I式期。
2号住居跡	(楕円形)	--×3.50	0.3	深鉢・磨石	18・69号土坑と重複。東側半分が遺存。中央付近に埋甕炉・地床炉1・土坑2。遺物は東側に集中。中峰式・加曾利E I式期。
3号住居跡	(楕円形)	(5.10)×--	0.15	深鉢・浅鉢	27・44・61・67・84・85号土坑と重複。西側の一部が遺存。阿玉台式・加曾利E I式期。
4号住居跡	椭円形	5.04×4.30	0.2	深鉢・浅鉢・磨石	31・57号土坑と重複。有段式住居。中央付近に埋甕炉1・地床炉2。ピット6。阿玉台IV・加曾利E I式期。
5号住居跡	(楕円形)	4.76×--	0.3	深鉢・土器片錠・磨石	62・63号土坑と重複。ピット5。加曾利E I式期。
6号住居跡	不整形	--×3.50	上0.3 下0.6	深鉢・浅鉢	115号土坑と重複。有段式住居。下段に硬化面、上段に間仕切り。ピット6。南側は調査区外。阿玉台IV式期。
7号住居跡	(円形)	(6.80)×--	0.17	深鉢・浅鉢・凹石・磨石	92・98・99・100・104・105号土坑と重複。北側半分が遺存。阿玉台Ⅳ式(海板式系)・中峰式期。
8号住居跡	(不整形)	--×8.65	0.3	深鉢・浅鉢・土器片錠・打製石斧	70・75・101・103・111・112号土坑と重複。地床炉4、ピット26。土器片錠多数出土。東側は調査区外。阿玉台Ⅳ式・中峰式・加曾利E I式期。



第6図 4・6号住居跡

第3節 土坑

109基の土坑が検出された。重複が激しく、狭い範囲に集中して検出されている。土坑はその形態からA-Dの4種類に大別できる。

A類は7基検出されている。平面形が長楕円形、断面形は漏斗状を呈するもので、陥し穴と推定される。さらにピットを有する土坑をAp類とした。57号土坑の底部には、6基の小ピットが並んで検出されているが、他の陥し穴では小ピットは検出されなかった。本遺跡におけるこれら陥穴状を呈する土坑からは、伴出遺物が無く時期を明確にする事はできなかつたが、同様の土坑を検出している六十原遺跡では、縄文時代早期に比定されている。

B類は本遺跡から最も多く検出され、貯蔵穴と推定される土坑である。平面形は円形・楕円形が多く、方形・不整形も見られる。規模では直径が3m前後の大形のものもある。覆土は自然堆積と人為的に埋め戻したものとに大別できる。また、ある程度自然堆積が進んだ後に焼土・炭化物・貝を廃棄した土坑もある。土坑の大半は貯蔵穴と考えられ、良好な遺物を出土したものが多く、これらの資料より縄文時代中期に比定される。断面の形状より更に次の3種類に細分した。

底部が広く上部が狭い袋状を呈する……………B 1類

一部が袋状を呈する……………B 2類

鍋底状を呈し壁面がほぼ垂直に立ち上がる……………B 3類

尚、底部にピットを有する土坑はB-p類とした。

C類は7基検出されている。平面形が円形若しくは楕円形で、断面形状は浅い皿状を呈する。分布状況が他の土坑と異なり調査区の北側に偏在する傾向を見せるもので、形状より墓坑の可能性がある。時期を決定できる遺物を出土した土坑は無かった。

D類は1基のみの検出で調査区域のはば中央付近に於いて検出されている。平面形が円形を呈し、断面形がU字状の土坑である。性格不明の土坑である。C類同様時期を決定できる遺物は検出されていない。

土坑は各類型別に特徴的な9基について実測図を第6・7図に掲載した。その他の土坑については表2・3 土坑一覧表(1)・(2)にまとめた。

Ap類 57号土坑 (第7図)

57号土坑は調査区のはば中央に位置し、4号住居跡の床面下に於て確認されたものである。平面形は長楕円形を呈し、確認面の長径1.50m、短径0.65m、底部の長径1.20m、短径0.20m、断面形は漏斗状で深さ1.50mを測る。底部に6基の小ピットが穿たれている。

遺物は検出されていない。

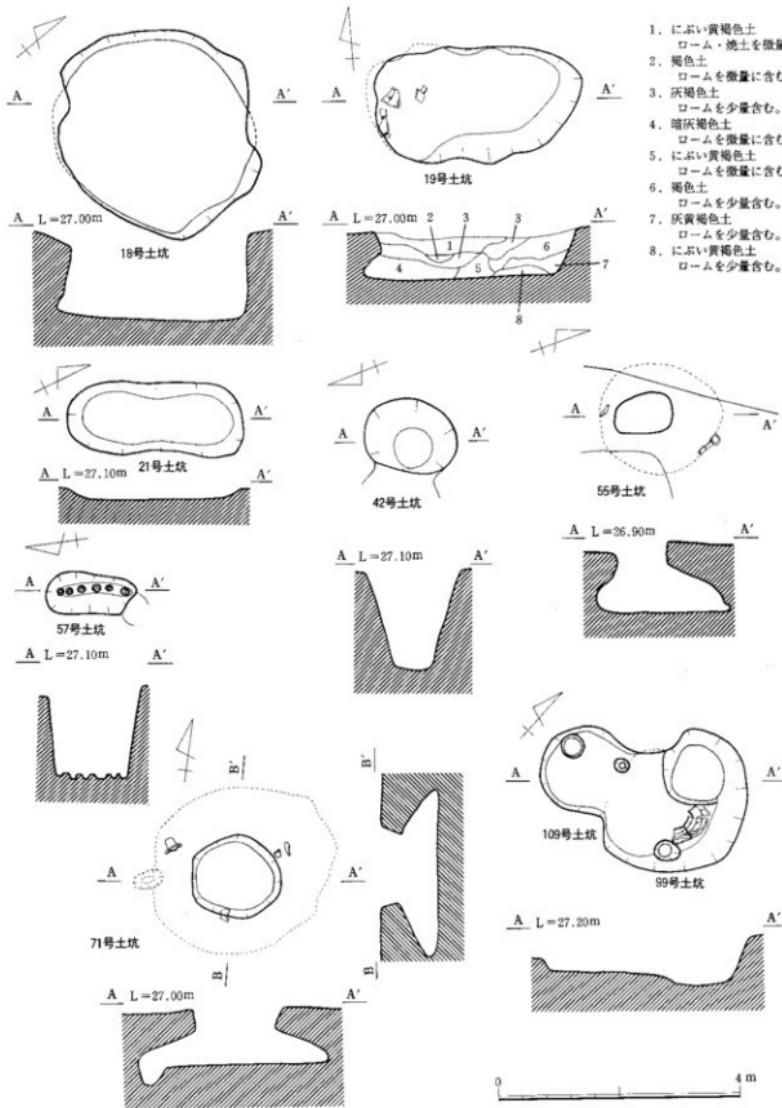
B 1類 55号土坑 (第7図)

55号土坑は調査区の西端に位置し西側は調査区外である。平面形は楕円形を呈し確認面の長径1.00m、短径0.65m、底部の長径2.00m、短径1.80m、断面形は袋状で深さ1.10mを測る。

遺物は土器を中心に多量に出土している。深鉢型土器5点・石器1点を掲載した。



55号土坑出土の貝類



第7図 18・19・21・42・55・57・71・99・109号土坑

特筆事項として土坑底部付近から貝を含む土層が検出されている。貝はウミニナ・イボウミニナが多く、火を受けているものもある。また、般頂部が欠損している貝がほとんどである。その他、オキシジミ・ハマグリ、魚骨等も僅かではあるが出土している。

B 1類 71号土坑 (第7・13図)

本土坑は調査区の南西部に位置し、66号土坑と重複する。平面形は円形を呈し、断面形は袋状である。規模は開口部が約 1.55×1.35 m、底部が約 3.10×2.10 mと広がる。深さは0.95mを測る。

遺物は深鉢型土器2点について図示した。

B 2類 18号土坑 (第7・10図)

18号土坑は調査区の北西部に位置し、2号住居跡、19・52・69号土坑と重複する。平面形は不整円形を呈する。底部はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、一部袋状に広がる部分がある。規模は約 3.50×3.10 m、深さは約1.45mを測る。覆土はロームブロックを含む黄褐色土を基調とし、中層に焼土を含む褐色・灰褐色土が堆積している。

遺物は土器を中心に多量に出土している。深鉢型土器4点、浅鉢1点について図示した。

B 2類 19号土坑 (第7・10図)

19号土坑は調査区の北西部に位置し、18・52号土坑と重複する。平面形は梢円形を呈する。底部はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、一部袋状に広がる部分がある。規模は約 3.40×1.95 m、深さ約0.75mを測る。覆土は上層に焼土を含むにぶい黄褐色土、その下層にロームブロックを含む褐色・黄褐色土が堆積している。

遺物は西側の壁際に集中して出土している。深鉢型土器5点(内1点は写真のみ)について掲載した。

B 3 p類 99号土坑 (第7・15図)

本土坑は調査区のやや東寄りに位置し、109号土坑と重複する。平面形は円形を呈すると推定され、断面形は鍋底状である。規模は 2.30×2.00 m、深さ0.80mを測る。南の壁間にピット、北側には土坑状の掘り込みを有する。

遺物は縄文時代中期中葉の深鉢型土器が東隅の底部付近から出土している。

B 3 p類 109号土坑 (第7・15図)

本土坑は調査区のやや東寄りに位置し、99号土坑と重複する。平面形は円形を呈すると推定され断面形は鍋底状である。規模は径約1.40m、深さ約0.45mを測る。底部にピット2基を有する。

遺物は縄文中期中葉の深鉢型土器が出土している。

C類 21号土坑 (第7図)

21号土坑は調査区の北東に位置する。平面形は円形を呈し、底部はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は約 2.90×1.10 m、深さ約0.15mを測る。覆土はロームブロックを含む黄褐色土である。

遺物は検出されなかった。

D類 42号土坑 (第7図)

42号土坑は調査区の中央付近に位置し、43号土坑と重複する。平面形は円形を呈し、断面形はU字状である。規模は約 1.60×1.20 m、深さ約1.60mを測る。

遺物は検出されなかった。

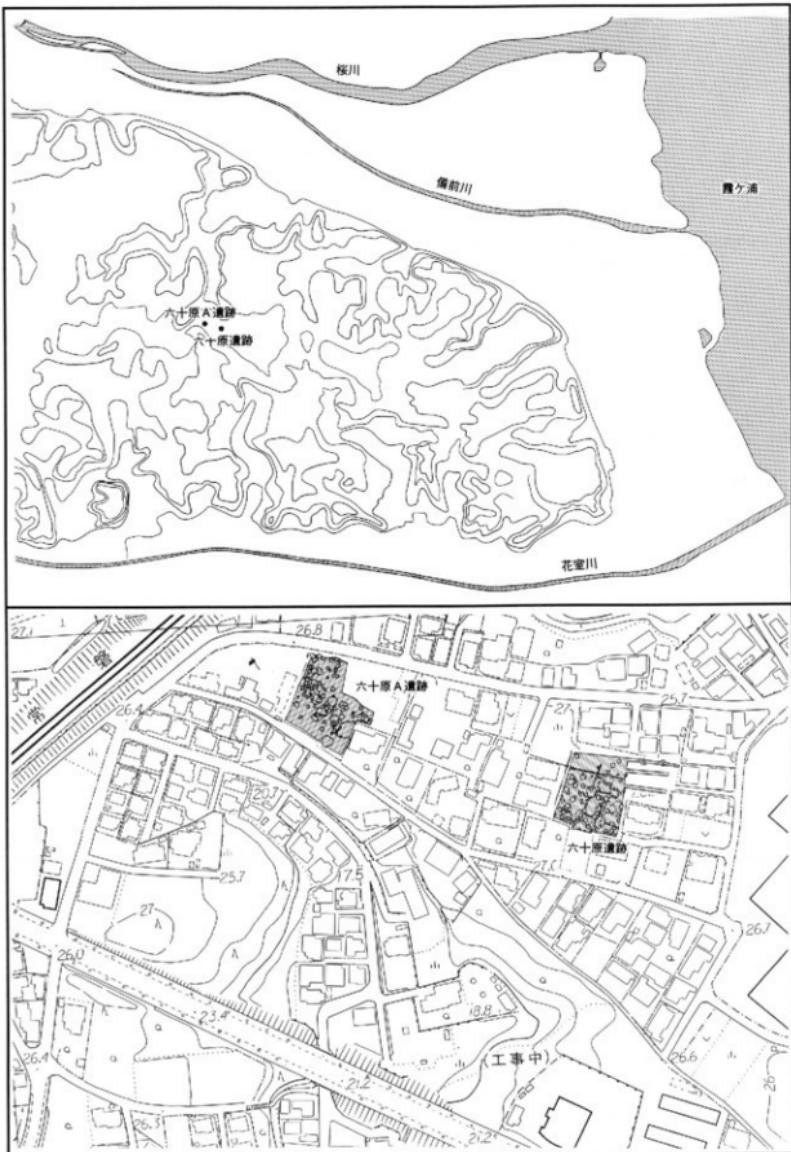
表2 土坑一覧表(1)

番号	形態			確認面の径(m)		底径(m)		(m)	備考
	平面形	断面形	分類	長軸	短軸	長軸	短軸		
1	楕円形	皿状	C	1.70	1.30	1.30	0.90	0.30	
2	楕円形	皿状	C	1.85	1.00	1.60	0.65	0.20	
3	楕円形	鍋底状	C	2.30	1.25	1.95	1.05	0.40	
4	(楕円形)	(鍋底状)	(B3)	—	(1.20)	—	(0.90)	0.45	
5	円形	袋状	B 1	2.40	2.20	2.40	2.30	0.70	
6	楕円形	皿状	C	1.95	1.35	1.60	0.65	0.45	37号土坑重複。
7	楕円形	袋状	B 1	1.60	1.35	2.15	2.10	1.00	
8	楕円形	鍋底状	B 2	1.70	1.15	1.35	1.15	0.75	
9	円形	鍋底状	B2P	1.90	1.90	2.10	1.85	0.90	
10	(楕円形)	袋状	B 1	1.70	—	2.45	—	1.25	29号土坑重複。ピット1。
11	(楕円形)	鍋底状	B2P	—	(1.95)	—	(1.80)	0.65	1号住居、11-16-17号土坑重複。
12	(楕円形)	鍋底状	B 2	(2.25)	—	(1.90)	—	0.90	1号住居、12-45号土坑重複。
13	円形	鍋底状	B2P	2.30	2.10	2.10	1.95	1.55	11-17号土坑重複。
14	円形	鍋底状	B 2	1.95	1.65	1.80	1.70	0.85	ピット1。
15	円形	袋状	B 1	1.60	1.60	1.85	1.70	0.90	
16	楕円形	袋状	B 1	2.45	2.00	2.60	1.85	1.10	
17	(楕円形)	(鍋底状)	(B3)	(1.60)	—	(1.60)	—	1.20	1号住居、10号土坑重複。
18	円形	鍋底状	B 2	3.50	3.10	3.35	3.15	1.45	10~12号土坑重複。
19	楕円形	鍋底状	B 2	3.40	1.95	3.32	1.26	0.75	2号住居、19-52-69号土坑重複。
20	円形	袋状	B 1	1.80	1.75	2.00	1.80	0.75	
21	円形	皿状	C	2.90	1.10	2.45	0.65	0.15	
22	楕円形	袋状	B 1	2.00	1.50	2.55	2.00	0.85	50号土坑重複。
23	(楕円形)	鍋底状	B 2	—	2.20	—	1.70	0.55	32-67-68号土坑重複。
24	楕円形	袋状	B 1	0.80	0.60	2.05	1.75	1.20	33号土坑重複。
26	円形	袋状	B 1	0.80	0.75	2.25	2.30	1.15	
27	円形	袋状	B 1	1.65	1.60	1.70	1.70	0.70	24-67号土坑重複。
28	楕円形	袋状	B 1	2.05	1.50	2.40	1.50	0.70	55号土坑重複。
29	(円形)	袋状	B 1	1.60	—	1.60	—	0.75	9号土坑重複。
30	円形	袋状	B 1	0.60	0.50	1.60	—	1.05	
31	楕円形	袋状	B 1	1.60	0.85	2.45	2.15	1.05	4号住居重複。
32	不整形	鍋底状	B3P	—	2.80	—	2.70	0.60	23-50号土坑重複。ピット1。
33	円形	袋状	B 3	1.15	1.05	1.10	—	0.75	24号土坑重複。
34	円形	袋状	B1P	1.90	1.60	1.95	—	0.65	38号土坑重複。ピット1
35	円形	袋状	B 1	1.80	1.80	2.70	—	1.00	26号土坑重複。
36	楕円形	袋状	B 1	1.65	1.40	1.70	1.50	1.20	4号土坑重複。
37	(円形)	鍋底状	B 3	2.35	—	2.00	—	0.55	6号土坑重複。
38	楕円形	袋状	B 1	1.85	1.45	2.25	1.95	1.05	34号土坑重複。
39	楕円形	袋状	B 1	1.75	1.25	2.60	—	1.95	46号土坑重複。
40	(円形)	鍋底状	B 2	1.75	—	1.90	—	0.65	49号土坑重複。
41	(円形)	袋状	B 1	1.15	—	1.38	—	1.05	39号土坑重複。
42	円形	U字状	D	1.60	1.20	0.60	0.60	1.60	43号土坑重複。
43	楕円形	鍋底状	B 2	2.00	1.50	1.70	1.10	1.15	42号土坑重複。
44	円形	鍋底状	B 3	3.30	2.90	3.05	3.00	1.20	3号住居、47-61-68号土坑重複。
45	—	—	—	—	—	—	—	1.30	11-46号土坑重複。北側調査区外。
46	不整形	袋状	B 1	—	—	—	—	0.85	53-54-56号土坑重複。
47	(円形)	袋状	B 1	1.70	—	1.95	—	0.90	44号土坑重複。
48	楕円形	袋状	B1P	2.20	1.85	2.40	1.60	1.00	ピット1。
49	長楕円形	漏斗状	A	1.90	0.70	1.75	0.30	1.60	40-51号土坑重複。
50	不整形	袋状	B 1	1.25	0.95	2.80	2.55	1.15	32-51号土坑重複。
51	—	—	—	—	—	—	—	0.60	0.60
52	(円形)	鍋底状	B 2	2.20	—	2.05	—	0.30	49-50号土坑重複。ピット1。
53	不整形	袋状	B 1	1.55	0.55	2.00	1.85	1.00	18-46号土坑重複。
54	(円形)	鍋底状	B 2	1.65	—	1.55	—	0.60	18-46号土坑重複。
55	楕円形	袋状	B 1	1.00	0.65	2.00	1.80	1.10	46-52号土坑重複。
56	—	(袋状)	(B1)	—	—	—	—	1.15	49-54号土坑重複。西側調査区外。

表3 土坑一覧表(2)

番号	形態			確認面の径(m)		底径(m)		(m)	備考
	平面形	断面形	分類	長軸	短軸	長軸	短軸		
57	横円形	漏斗状	A P	1.50	0.65	1.20	0.20	1.50	4号住居重複。ピット6。
58	不整形	袋状	B1 P	1.65	—	1.85	1.45	0.75	ピット1。
59	横円形	袋状	B 1	1.60	1.30	2.75	2.50	1.35	底部に張り出し1。
60	円形	袋状(B1)	—	—	1.80	—	2.40	0.80	ピット1。
61	(横円形)	鍋底状	(B3)	2.00	—	1.45	—	0.65	3号住居、44号土坑重複。
62	円形	袋状	B 1	1.75	1.40	1.90	—	1.05	5号住居重複。
63	(方形)	鍋底状	B 3	1.80	—	1.50	—	0.70	5号住居、76号土坑重複。ピット1。
64	円形	袋状	B 1	1.60	1.50	2.30	2.20	0.90	
65	円形	袋状	B2 I	1.85	1.75	2.20	2.40	0.70	ピット1。
66	円形	袋状	B 1	2.00	1.85	2.15	—	0.65	71号土坑重複。
67	(横円形)	皿底状(C)	—	—	1.55	—	1.10	0.25	23-27号土坑重複。
68	---	鍋底状	—	—	1.20	—	1.05	0.40	23-44号土坑重複。
69	(円形)	袋状(B1)	—	(1.05)	—	(1.35)	0.95	0.95	2号住居、18号土坑重複。
70	横円形	皿底状	C B1	1.35	0.90	1.25	0.65	0.25	8号住居重複。
71	円形	袋状	B1 P	1.55	1.35	3.10	2.70	0.95	66号土坑重複。ピット1。
72	横円形	袋状	B 1	2.20	1.50	2.50	0.90	0.75	60号土坑重複。
74	円形	鍋底状	B 2	1.70	1.55	1.70	1.45	0.90	90号土坑重複。
75	円形	鍋底状	B 3	1.50	1.40	1.15	1.05	1.50	8号住居重複。
76	(円形)	(鍋底状)	(B3)	(2.40)	—	(2.20)	—	0.75	63-77号土坑重複。ピット2。
77	---	袋状	—	—	—	—	—	0.75	5号住居、76-97号土坑重複。
79	円形	---	B 1	1.80	1.65	2.55	2.75	1.15	
80	円形	袋状	B 1	1.10	1.10	2.10	2.90	1.10	
81	円形	袋状	B 2	1.75	1.65	1.60	1.50	1.10	82-88号土坑重複。
82	横円形	鍋底状	B 3	3.70	1.95	3.65	1.80	1.60	81-87-88-108号土坑重複。
83	長椭円形	鍋底状	A	1.40	0.50	1.25	0.10	1.00	
84	円形	漏斗状	B3 P	1.45	1.20	1.30	1.20	0.50	3号住居重複。ピット1。
85	円形	鍋底状	B 3	1.55	1.50	1.35	1.20	0.90	61号土坑重複。
86	(不整形)	鍋底状	(B3)	—	—	—	—	0.75	41-77号土坑重複。ピット2。
87	円形	(鍋底状)	B 3	3.10	2.75	2.10	1.70	1.10	82-88号土坑重複。
88	(横円形)	鍋底状	(B3)	(2.40)	—	(2.25)	—	0.60	80-81-82-87号土坑重複。
89	円形	鍋底状	B 1	2.15	1.95	2.90	2.80	1.40	
90	円形	袋状	B 3	1.50	1.40	1.00	1.00	0.85	
91	横円形	鍋底状	B1 P	1.85	1.50	2.10	1.95	0.85	ピット1。
92	(円形)	袋状	(B3)	—	(1.70)	—	(1.60)	0.60	100-104号土坑重複。
93	円形	鍋底状	B 3	—	1.70	—	1.30	1.10	94号土坑重複。
94	円形	鍋底状	B3 P	—	1.40	—	1.00	1.05	93-95号土坑重複。ピット2。
95	横円形	鍋底状	B 2	1.90	1.80	2.30	1.70	0.85	94-96-98号土坑重複。
96	(円形)	鍋底状	B 2	2.00	—	1.70	—	0.70	76-95号土坑重複。底部に張出し1。
97	(横円形)	鍋底状	B2 P	2.15	—	1.80	—	0.85	77-86号土坑重複。
98	横円形	鍋底状	B1 P	2.35	1.55	2.85	1.55	1.10	ピット1。
99	円形	袋状	B3 P	2.30	2.00	1.70	1.70	0.80	109号土坑重複。ピット2、張出し1。
100	方形	鍋底状	B 3	2.25	1.80	2.10	1.65	0.75	7号住居、92-104号土坑重複。
101	(横円形)	鍋底状	B 1	—	(1.00)	—	(1.85)	1.00	8号住居重複。南側調査区外。
102	円形	袋状	B3 P	2.80	2.80	2.40	2.20	1.15	ピット2。
103	長椭円形	鍋底状	A	1.65	0.60	1.10	0.25	1.10	8号住居重複。
104	(横円形)	漏斗状	(B3)	(1.70)	—	(1.60)	—	0.55	92-100号土坑重複。ピット1。
105	円形	(鍋底状)	B3 P	1.75	1.60	1.30	1.25	0.50	7号住居重複。ピット1。
106	横円形	鍋底状	B 1	1.65	1.25	2.40	2.30	1.60	82号土坑重複。
107	(円形)	袋状	B3 P	1.40	—	1.25	—	0.45	99号土坑重複。ピット2。
109	(円形)	鍋底状	A	1.30	1.00	1.15	0.40	1.30	8号住居重複。
111	横円形	鍋底状	A	1.30	0.95	0.60	0.30	1.05	8号住居重複。
112	横円形	漏斗状	A	1.45	0.85	0.95	0.40	0.90	8号住居重複。
113	横円形	漏斗状	A	—	0.95	—	0.75	0.10	8号住居重複。
114	(横円形)	漏斗状	(B3)	—	—	—	—	0.55	6号住居重複。
115	(横円形)	(鍋底状)	(B3)	—	1.55	—	1.20	0.55	

※ 23-73-78-106-107-110号は欠番



第8図 六十原A・六十原遺跡位置図

第7章　まとめ

本遺跡周辺は近年の宅地化が進み、旧来の地形を把握するにはやや困難な状況にあるが、現在の土浦日大高校を中心として小松ヶ丘・桜ヶ丘町地域の標高25m前後、凡そ30万平方メートルにおよぶ台地を形成していることがわかる。この台地は、さらに西側の国分町、東側の霞ヶ岡町にも連続し、いずれの台地も北の桜川および南の花室川から入り込む小支谷によって複雑に開析を受けている。調査区はこの台地の西側端部で国分町側の台地へと続く部分に位置し、台地は西に向かって徐々にその幅を減じる部分になる。

調査の結果、縄文時代中期中葉に比定される住居跡8軒、土坑109基がやや北北西から南南東に向かって緩やかな弧を描くように連続して検出されている。このことは、台地の縁辺に向かう本調査区域は、近接する六十原遺跡の遺構分布状況と合わせて全体を概観すれば、本来2遺跡は同一の遺跡であり、六十原遺跡を中心に遺構が環状の配置を示すのか、若しくは台地上に複数の環状の遺構の集中区が存在する可能性を示すものであろう。

遺構別の分布状況を見れば、住居跡・B類の土坑は環状の配置となり同様の傾向を示しているが、一方でA類の土坑は調査区の中央やや南寄りに東西方向に分布し偏在の傾向を示している。この事は、前者が縄文時代中期の遺構と確認されていることから、環状の遺構配置を形成する時期が該期である事が想定できる。換言すれば、A類とした陥穴は、前述のように縄文時代早期末葉の遺構の可能性を含め、中期とは異なる時期の遺構と考えられる。

検出された遺構の特徴としてはB類とした多数の土坑の検出が挙げられる。袋状の形態を呈するもので貯蔵穴としての性格が考えられる。重複している土坑が多く、住居跡の周辺に連続して集中的に構築された事がわかる。又、同類の土坑からは完形土器を中心に大量の遺物を撤出したものが多い。遺物はその特徴から中期中葉から後半にかけての阿玉台終末から中岬式・加曾利E式の前半にかけての所産と判断され、勝坂式や大木式の影響を受けるものもある。これは、土坑に比べて遺物の出土量が少なかったものの住居跡出土遺物の時期と一致している。

検出された遺物は、大形整理箱に30箱を越すもので、縄文時代中期の遺物が大半である。この内1点のみであるが頁岩質の尖頭器が検出されている。柳葉状の形状より旧石器時代末葉の所産と考えられる。

縄文時代の遺物は中期阿玉台Ⅳ式の遺物から加曾利E II式の遺物までが確認されている。細かな型式分類は行えなかつたが、千葉県内の利根川・江戸川周辺の遺跡出土資料に見られる、中岬式土器の良好な資料も含まれており、出土土器については今後詳細な検討が必要である。

更に、55号土坑をはじめ、貝層（魚骨を含む）を有する所謂地点貝塚や出土した炭化堅果類についても、将来自然科学分野からの科学的な調査が行われることを期待したい。

本遺跡は、台地中央付近に於ける最も標高の高い部分に位置し、弧状の集中を見せる等の点から明らかに縄文中期の大集落的な様相を示すものである。おそらく今回調査を行った範囲は六十原遺跡全域の一部分に過ぎないのであろう。開発によって残された遺跡地域が徐々に減少する中、今後の多方面からの調査による、より鮮明な遺跡の全体像の探究を期待したい。

抄録

フリガナ	ロクジュウハラ A イセキ							
書名	六十原 A 遺跡							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査							
編著者名	肥田 順一							
編集機関	山武考古学研究所 / 〒286 千葉県成田市並木町221番地 ☎0476(24)0536代							
発行機関	土浦市教育委員会 土浦市遺跡調査会 / 〒300 茨城県土浦市下高津2-7-36 ☎0298(26)1111							
発行年月日	西暦1996年 6月30日							
フリガナ 所収遺跡名	所 在 地	フリガナ	コ ー ド	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路番号					
六十原A遺跡	茨城県土浦市桜ヶ丘町2286-5番地	08203	市B-70	36°3'49"	140°11'44"	1995.07.03 ~09.19	1,055m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物			特 記 事 項	
六十原A遺跡	集落	縄文時代中期	住居跡 8軒 土坑 109基	縄文時代中期中農 (深鉢・浅鉢・器台・手捏ね・ 土器片・鍬・石鎌・石斧・凹 石・多孔石・貝・クルミ等)			縄文時代中期の袋 状の土坑が多數検 出された。	



抄録図

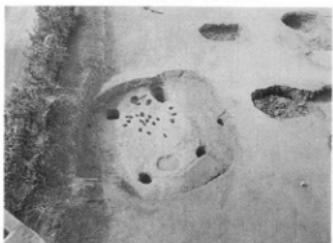
(国土地理院発行 1/50,000 に加筆)



3号住居跡、84・85土坑



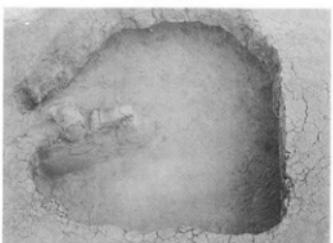
4号住居跡



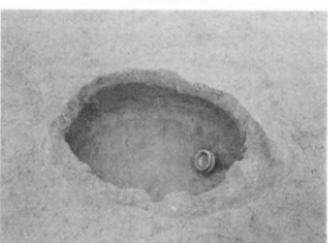
6号住居跡



8号住居跡



5号土坑



8号土坑



10・11・12・16・45号土坑



13号土坑

住居跡・土坑



19号土坑



19号土坑



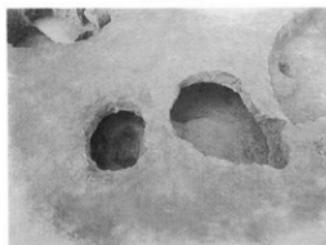
23号土坑



27号土坑



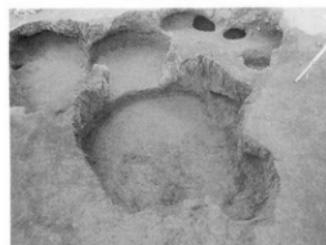
28号土坑



39·41号土坑



44号土坑



46·53·54·56号土坑

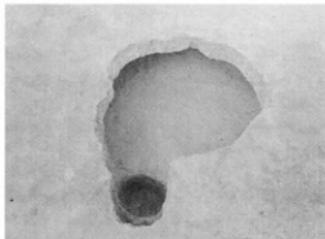
土 坑 (1)



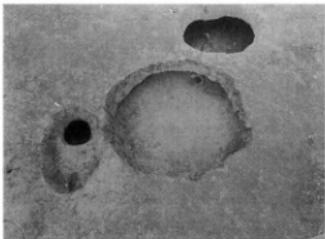
55号土坑



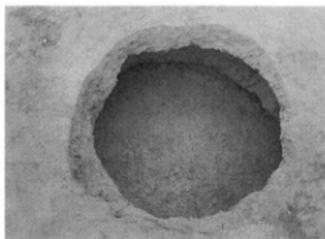
56号土坑



58号土坑



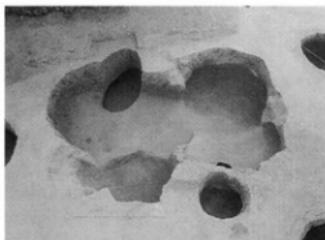
59号土坑



71号土坑



77号土坑

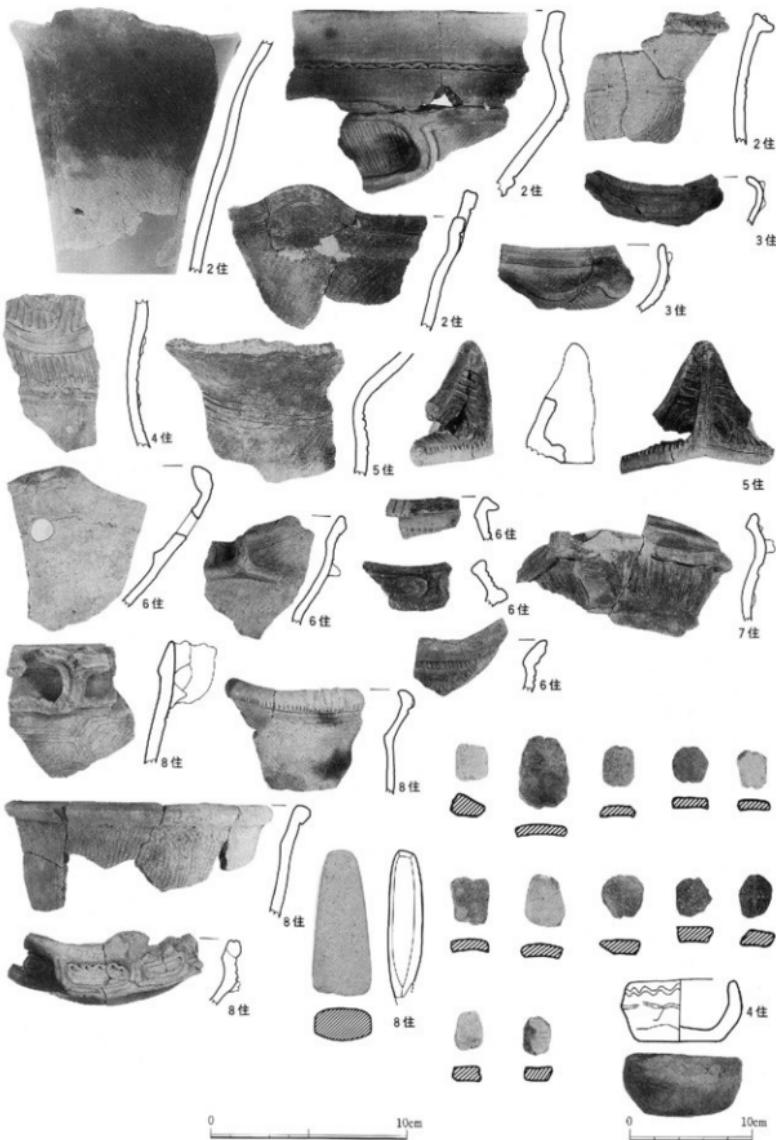


80·81·82·87·88号土坑

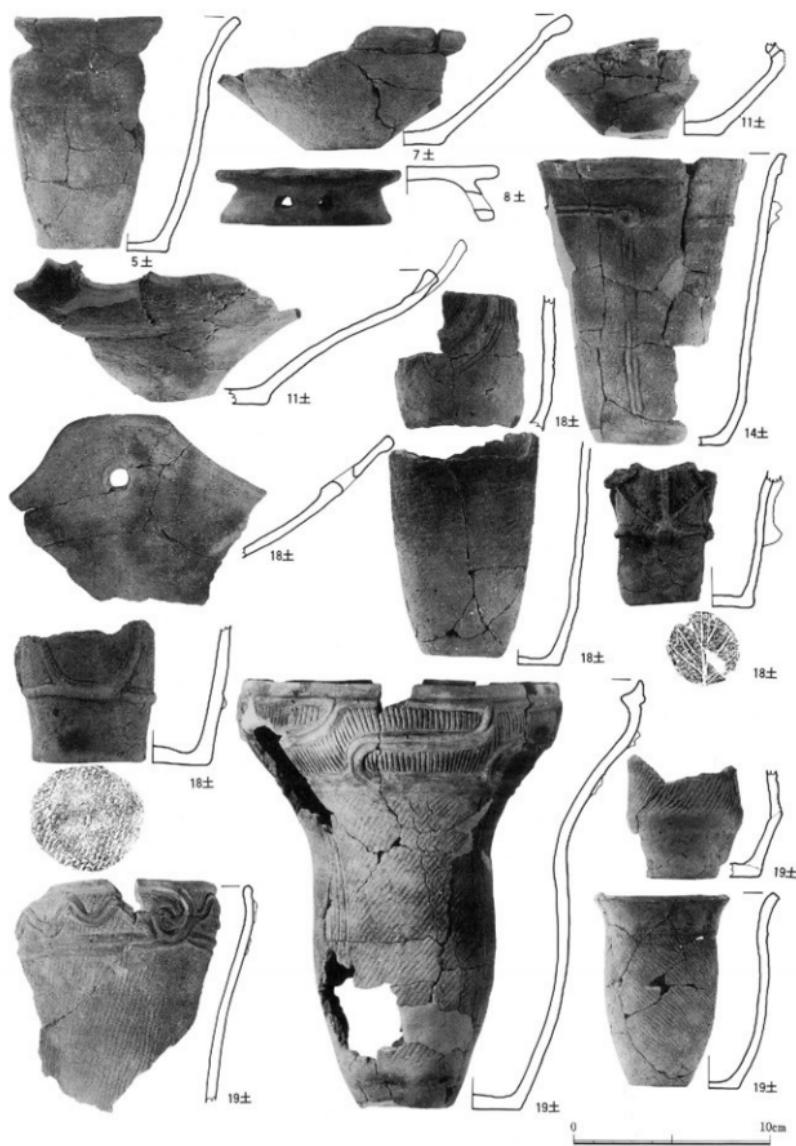


99号土坑

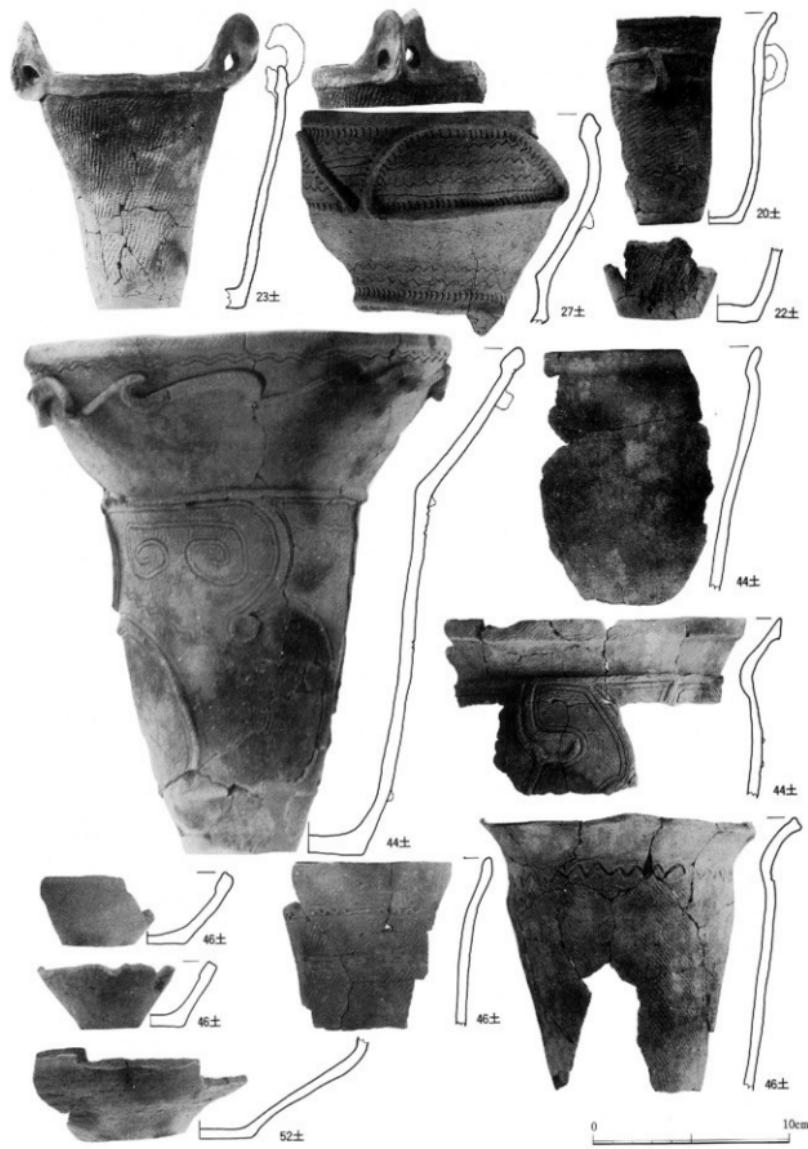
土 坑 (2)



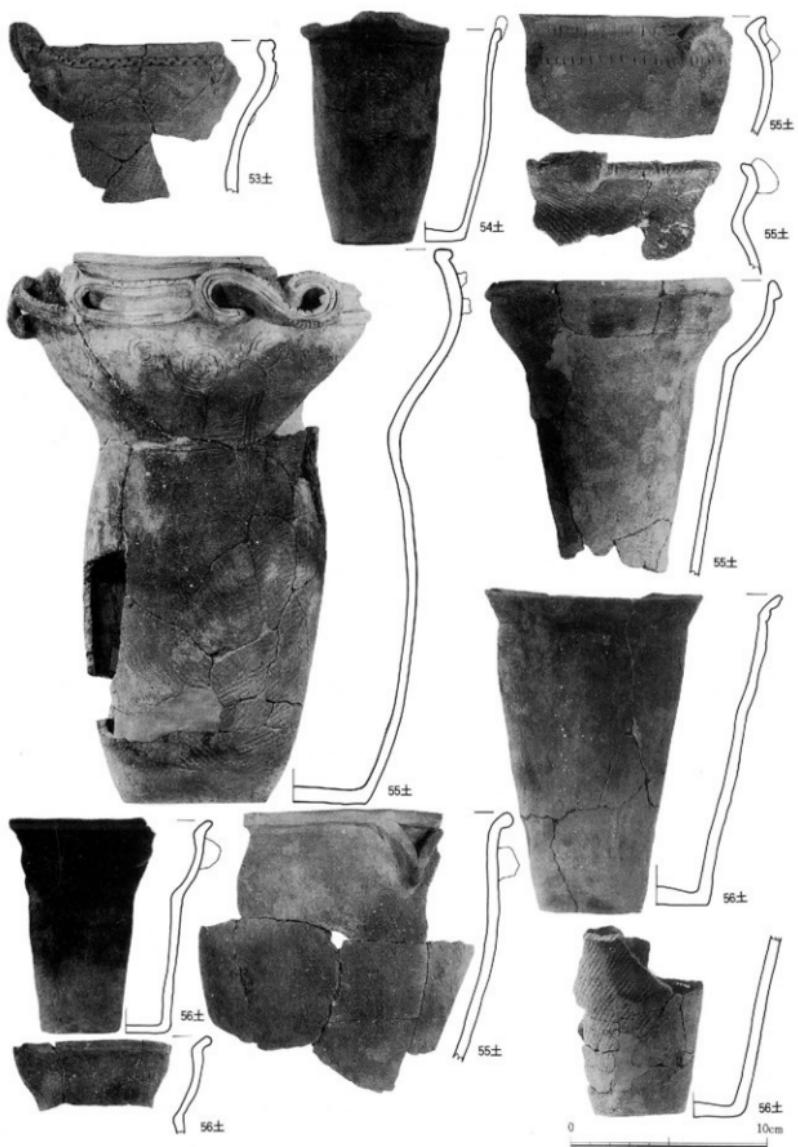
第9図 住居跡出土遺物



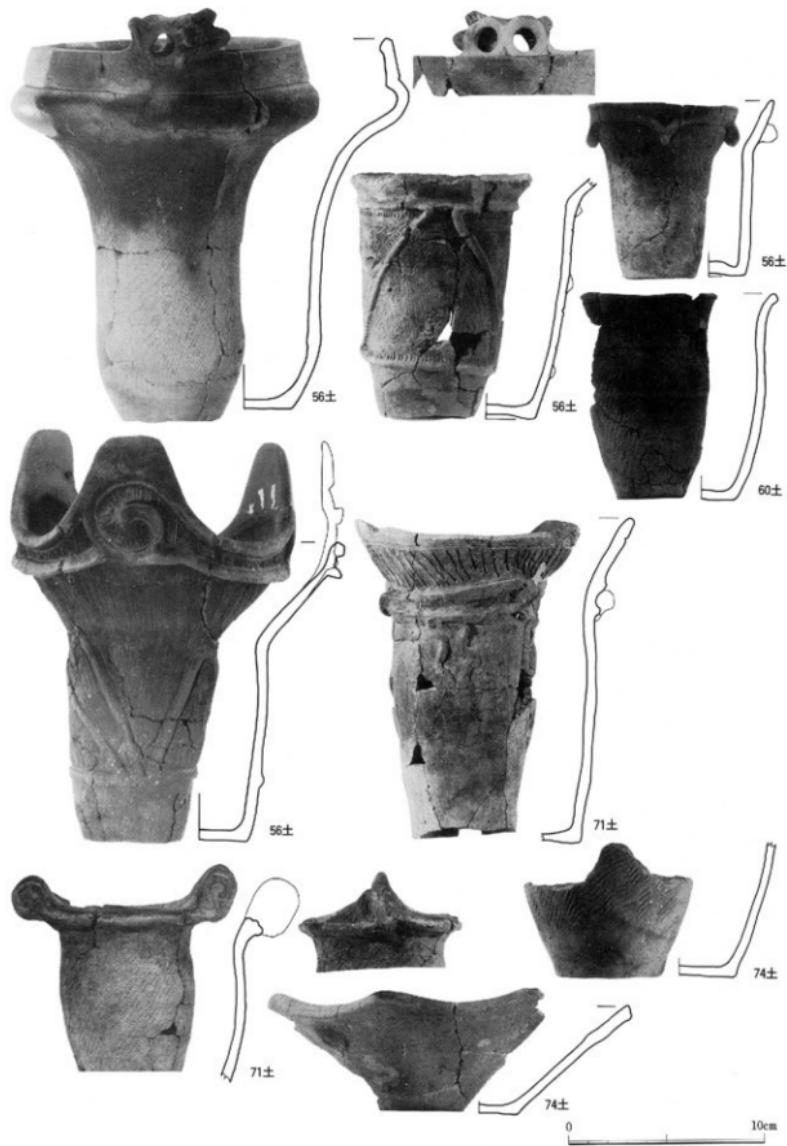
第10図 5・7・8・11・14・18・19号土坑出土遺物



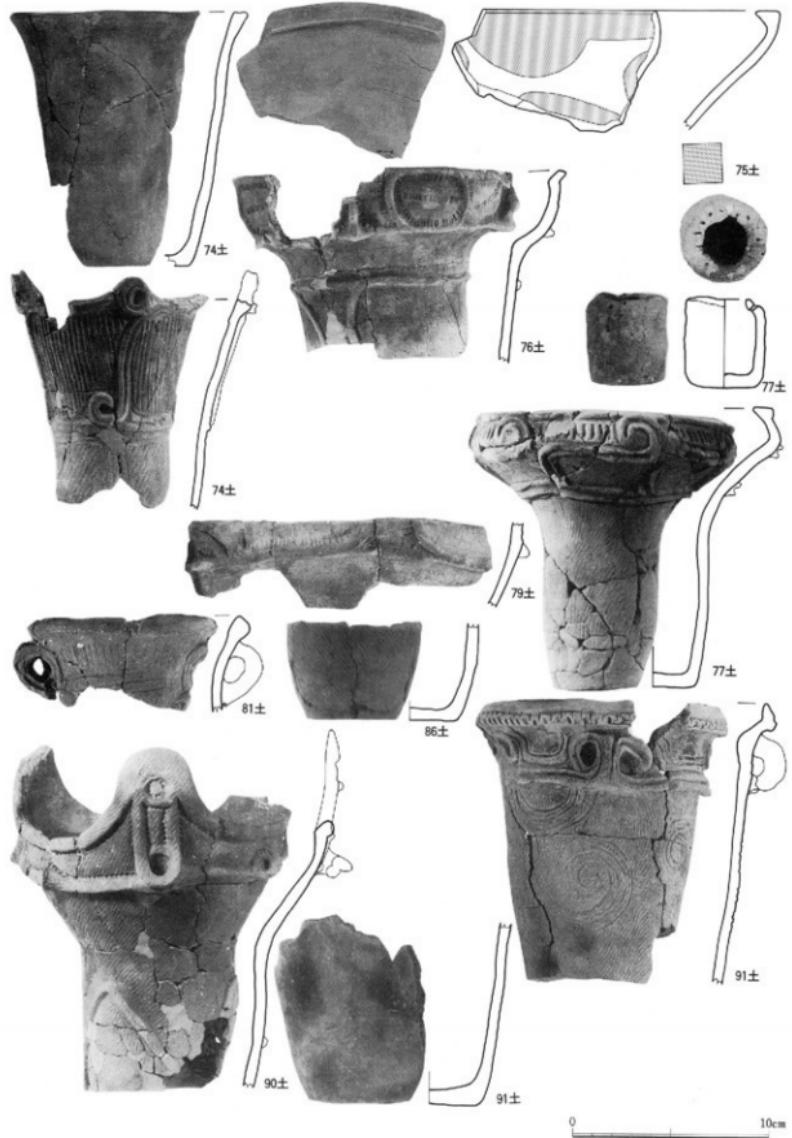
第11図 20・22・23・27・44・46・52号土坑出土遺物



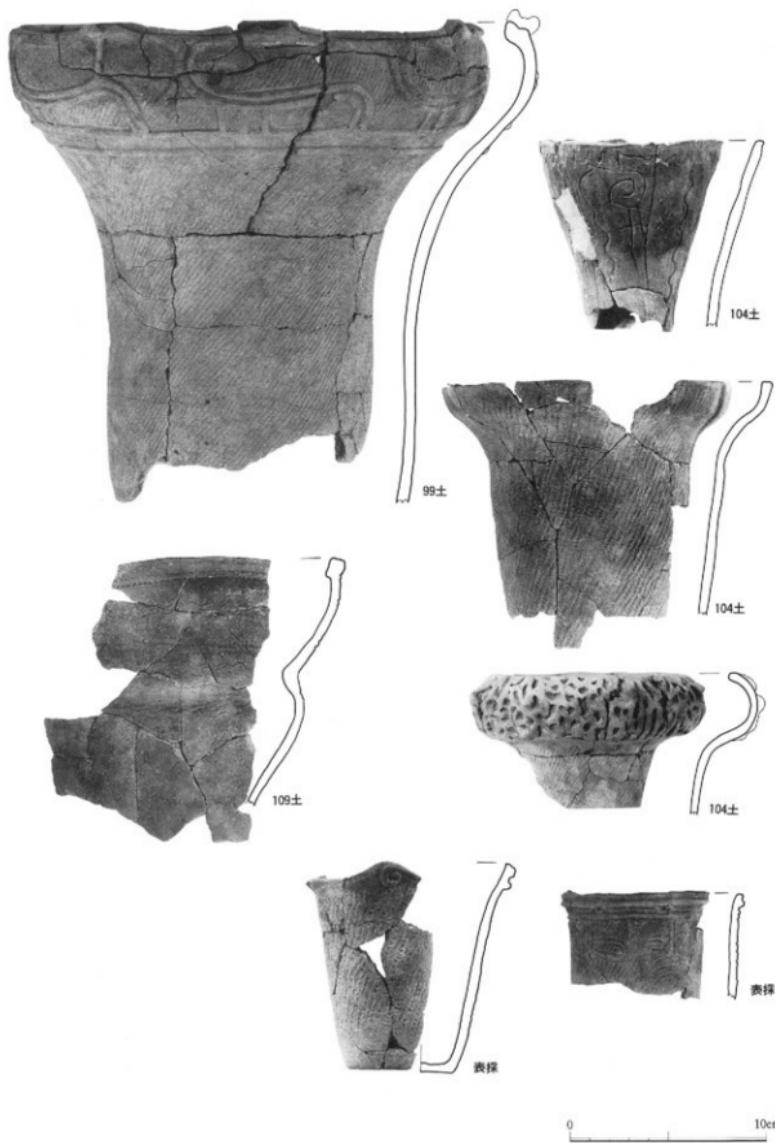
第12図 53・54・55・56号土坑出土遺物



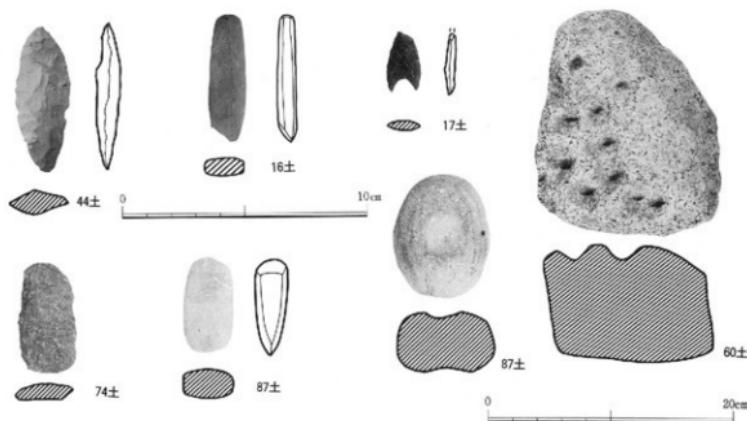
第13図 56・60・71・74号土坑出土遺物



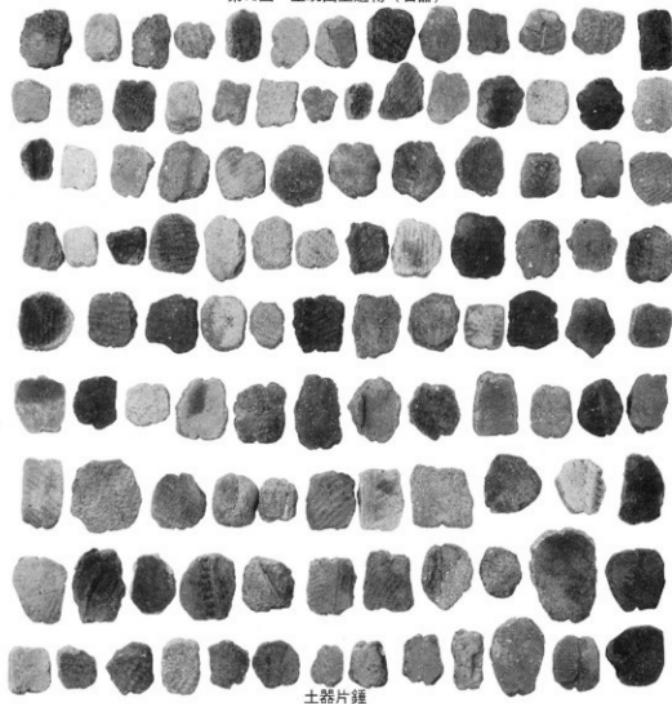
第14図 74・75・76・77・79・81・86・90・91号土坑出土遺物

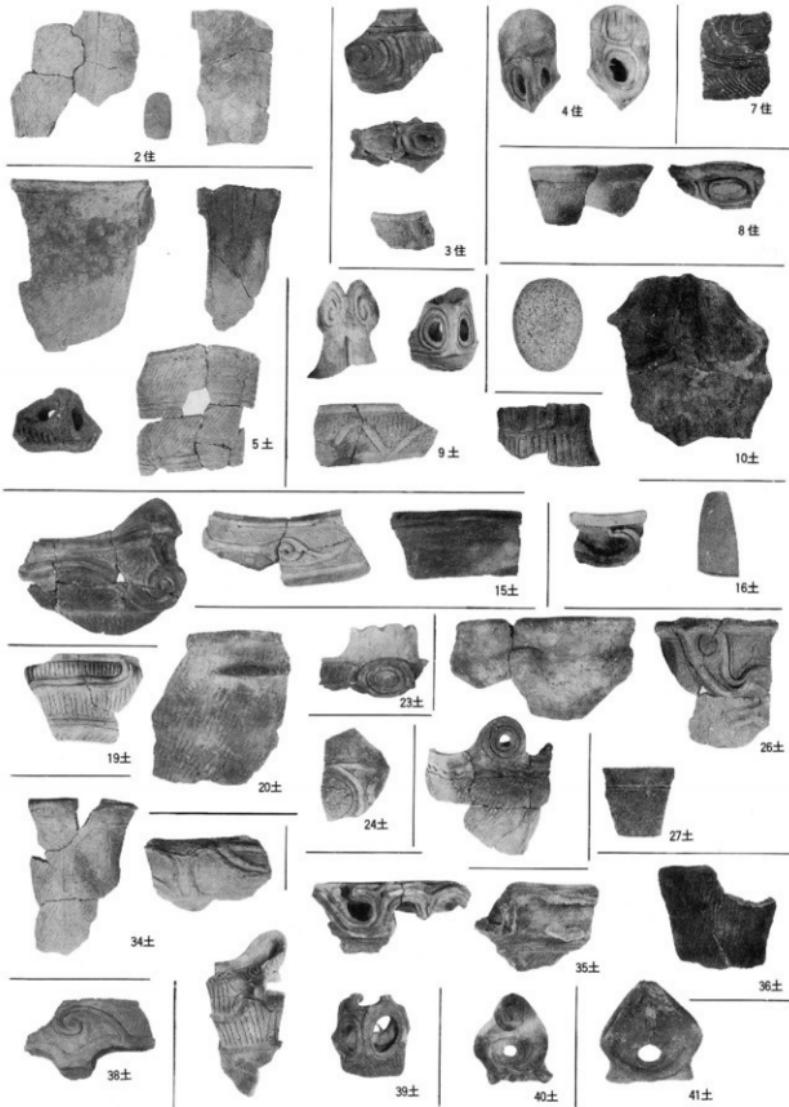


第15図 99・104・109号土坑、表探出土遺物

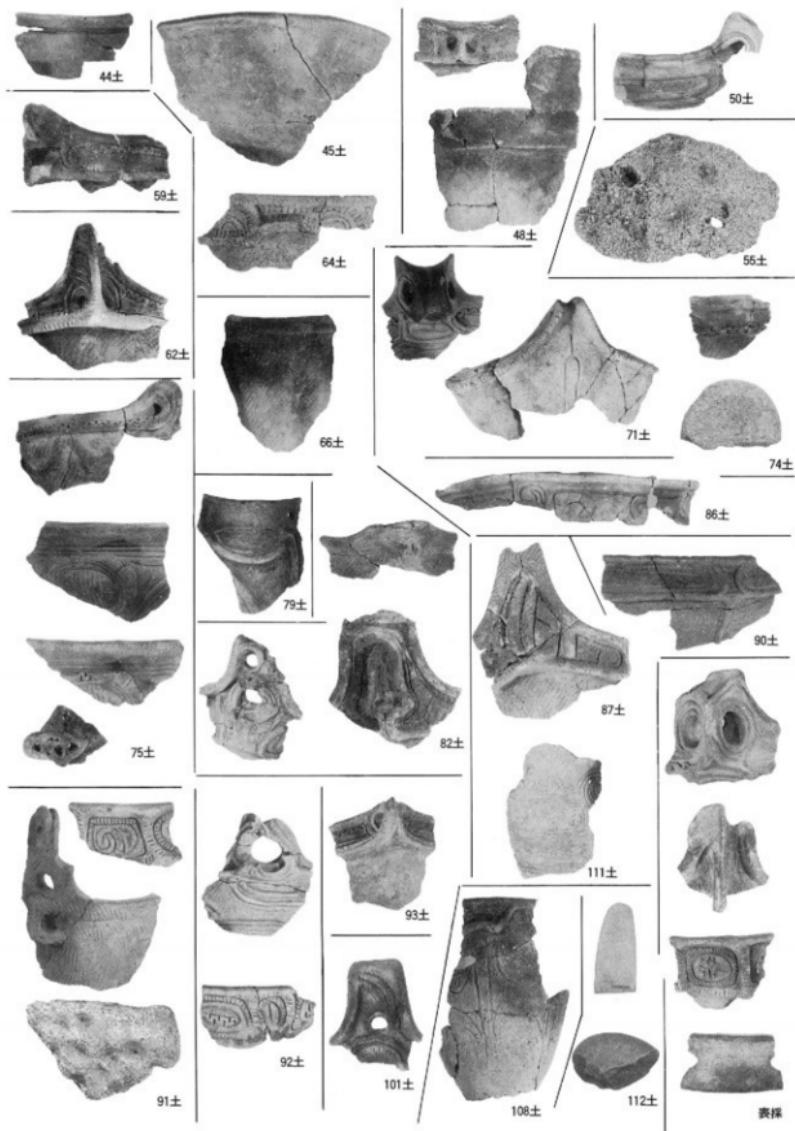


第16図 土坑出土遺物(石器)





住居跡、土坑出土遺物



土坑出土遗物

六十原A遺跡

—宅地造成に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

印 刷 1996年 6月25日

発 行 1996年 6月30日

編 集 山武考古学研究所
千葉県成田市並木町221

TEL 0476-24-0536

発 行 土浦市教育委員会

土浦市遺跡調査会

印 刷 株式会社文化総合企画
TEL (0476) 93-0593